

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653121

研究課題名(和文)文化資本と社会関係資本の関連性：クラシック音楽祭参加者への調査によるアプローチ

研究課題名(英文) Association between Cultural Capital and Social Capital: An Approach through the Surveys on Participants of Classical Music Festivals

研究代表者

辻 竜平 (TSUJI, Ryuhei)

信州大学・人文学部・准教授

研究者番号：40323563

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：クラシック音楽祭を題材に文化資本と社会関係資本との関連性について検討した。また、その主題と関連する芸術至上主義的態度、音楽祭への参加と人々のアイデンティティや精神的健康についても検討した。主な調査としては、「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」の一般のオーディエンスを対象とした調査と、中学生向けのプログラムに参加した中学生を対象としたパネル調査を行った。中学生調査では、発達過程の状態を知ることができる。

主な結果として、クラシック音楽への初期接触と、クラシック音楽の好み、および、地域活動や地域への評価との間に関係があることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The association between cultural capital and social capital were examined by means of two social surveys in a classical music festival. Besides, the attitude of art for arts' sake, and the social identity and mental health, of the audience were examined.

Mainly, two social survey was conducted. One is the survey for general audience in "Saito Kinen Festival, Matsumoto (SKF)" and the other is the survey for junior high school students who attended the student program of SKF. The latter enabled us to examine the association described at the beginning in the middle of developmental process.

As a result, we found the strong association between the initial contact to classical music and the preference in classical music, and the strong association between the initial contact and the participation and evaluation of their community.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：文化資本 社会関係資本 教育 クラシック音楽 クラシック音楽祭 オーディエンス調査 中学生調査

1. 研究開始当初の背景

文化資本論と社会関係資本論は、ともに教育を経て地位達成につながるという意味で資本ではあるが、2つの資本は独立したものと考えられてきた。しかし、2つの資本は独立しているわけではなく、その獲得や形成は、相互依存的に平行して起こることがあるのではないかと考えた。たとえば、文化的嗜好性が類似している人同士がネットワーク(社会関係資本)を形成したり、ネットワークから伝達された情報によって共通の文化的嗜好性を持つようになっていたりすることがあるのではないかというわけである。そこで、これらの2つの資本がどのようにして相互依存的に形成されるのか、そのプロセスについて実証的な解明を試みることにした。

このようなプロセスを解明するため、クラシック音楽祭という文化的イベントに注目した。クラシック音楽祭は、クラシック音楽という特定の趣味に関心がある人々が集う。家族とやってくる人もいれば、愛好家同士のグループでやってくる人もいる。そのため、同じクラシック音楽の趣味という文化資本であっても、その獲得過程が違いうるし、彼らの持つネットワークにも違いがあると考えたからである。

2. 研究の目的

(1) 文化資本と社会関係資本とが相互依存的に形成されるプロセスを解明する。社会関係資本の指標としては、ネットワーク・バッテリーによって得られる指標の他に、社会関係資本から生じると考えられるコミュニティ活動やコミュニティ意識も利用する。

これが主要な目的であるが、このテーマに付随したいくつかのテーマを設定した。

(2) 文化資本獲得過程を検討するために、中学生という大人までの発達過程の途中にある人々の文化資本獲得と家庭環境などとの関係性を解明する。

(3) クラシック音楽は、高尚な趣味と思われているが、そのような芸術至上主義的態度は、どのように獲得されたのかを解明する。

(4) 音楽祭への参加が人々のアイデンティティ形成や精神的健康に及ぼす影響について解明する。

3. 研究の方法

主として、2つの調査を行った。

(1) サイトウ・キネン・フェスティバル松本の一般のオーディエンスに対する質問紙調査

同音楽祭の会場周辺にて2000票の調査表を配付し、後日郵送にて回収した。回収票は610票であった。

クラシック音楽への初期接触体験(家族・友人知人・自己由来(ラジオなどで感動した

など))、好きなクラシック音楽の作曲家、ネットワーク・バッテリー、コミュニティ活動への参加、コミュニティへの評価、芸術至上主義的態度、自己アイデンティティ・精神的健康などの心理尺度などを測定し分析した。

(2) サイトウ・キネン・フェスティバル松本の中学生向けプログラムに参加した中学生に対する質問紙調査

同プログラムに参加した中学校において、鑑賞1週間前、1週間後、半年後の3回にわたってパネル調査を実施した。

また、同プログラムに参加した中学校の音楽担当教諭に、事前事後指導や、通常時の教育方法についてインタビューを実施した。

クラシック音楽への関心の喚起と継続性、家庭での文化資本(本の冊数など)について測定し分析した。

4. 研究成果

(1) コレスポネン分析の結果を比較すると、フランス人(ブルデュが『ディスタクシオン』で示したもの)と日本人の嗜好のパターンにはある程度の類似性があることが示された。

(2) クラシック音楽への初期接触について、初期接触と好きなクラシック音楽との間には、関連があることが示された。初期接触が明確でない場合は、クラシック音楽を浅い聴き方をする。趣味が家族由来の場合には、特定の作曲家への好みを持たない。自己由来の場合には、浅い聴き方をしない。多様な由来がある場合には、浅い聴き方をせず、古典派・ロマン派の巨匠好みではなく、さまざまな作曲家を聴こうとする。

(3) 初期接触が家族由来の人は、自己由来の人より収入が高い。現代まで含めた巨匠好みの方は、初期接触が曖昧な人や古典派・ロマン派の巨匠好みより収入が高い。

(4) コミュニティ活動への参加については、クラシック音楽への初期接触が家族由来と自己由来の両方の人は、初期接触が明確でない人や家族由来のみの人に比べてよく参加する。

コミュニティへの評価については、初期接触が家族由来と・自己由来の両方の人は、初期接触の不明な人、家族由来のみの人、自己由来のみの人に比べて評価が高い。

(5) 中学生においては、音楽祭で聴くことになっていたオペラへの関心を規定するものはクラシック音楽への関心であり、クラシック音楽への関心は、家庭の文化的活動、クラシック音楽好きな友達がいることに規定される。

音楽祭での鑑賞はオペラへの関心は高められるが、クラシック音楽全般への関心は高めな

い。鑑賞直後に高まったオペラへの関心は、半年後には元に戻る。しかし、学校によっては、半年後でもオペラへの関心が高く維持されている学校もあった。音楽教諭へのインタビューから、事前事後指導の実施法次第で生徒の関心を維持することは可能であることが示唆された。

(6) 芸術至上主義的態度を持つ人は、クラシック音楽への初期接触がテレビ・ラジオを通してだった人、音楽祭に家族や友人に誘われて参加した人、職業では経営者や役員、クラシック音楽への関与の高い人である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

辻 竜平, 2013, 「社会ネットワーク調査から見えるもの, 調査法上の問題点, そして展開可能性」『社会と調査』10: 5-8, 査読無。

石黒 格・野沢慎司・松尾 豊・安田 雪・中里裕美・辻 竜平, 2013, 「座談会「ネットワーク調査の問題と展開可能性」」『社会と調査』10: 9-37, 査読無。

辻 竜平, 2013, 「交際他者の多様性とその規定因: ポジション・ジェネレータを用いて」『人文科学論集 人間情報学科編』47: 115-128, 査読無。
https://soar-ir.shinshu-u.ac.jp/dspace/bitstream/10091/16975/1/Humanities_H47-08.pdf

[学会発表](計10件)

Tsuji, Ryuhei, 2014, “Examining the chain relationship from initial contact to classical music to socio-economic status via music preference,” 18th International Sociological Association, World Congress of Sociology, July 13 to July 19, Pacifico Yokohama.

Aizawa, Shinichi, 2014, “Does Embodied Musical Experience Remain In Children's Memory?: A Study of Longitudinal Analysis of Japanese Junior High School Students,” 18th International Sociological Association, World Congress of Sociology, July 13 to July 19, Pacifico Yokohama.

Kawamoto, Ayaka, 2014, “The Reception of “Art for Art’s Sake” in Japan: Case Study of a Classical Music Festival Audience,” 18th International Sociological Association, World Congress of Sociology, July 13 to July 19, Pacifico Yokohama.

辻 竜平, 2013, 「文化資本獲得と社会関係資本形成との関係性: 「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」オーディエンス調査より」, 日本社会学会第86回大会, 10月12日~13日, 慶應義塾大学。

相澤真一, 2013, 「クラシック音楽祭の鑑賞経験が中学生にもたらす効果: サイトウ・キネン・フェスティバル松本に関する調査の分析」, 日本社会学会第86回大会, 10月12日~13日, 慶應義塾大学。

川本彩花, 2013, 「クラシック音楽祭観客に見る芸術至上主義の受容: サイトウ・キネン・フェスティバル松本に関する調査の分析」, 日本社会学会第86回大会, 10月12日~13日, 慶應義塾大学。

辻 竜平, 2013, 「クラシック音楽文化資本の収入に対する世代効果: 「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」オーディエンス調査より」, 数理社会学会第56回大会, 8月27日~28日, 関西学院大学。

辻 竜平, 2013, 「クラシック音楽の選好からみた分類と諸要因との関係: 「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」オーディエンス調査から」, 数理社会学会第55回大会, 3月19日~20日, 東北学院大学。

長谷川孝治・辻 竜平, 2012, 「ソーシャル・キャピタルと集団アイデンティティが心理的健康に及ぼす影響」, 日本社会心理学会第53回大会, 11月17日~18日, つくば国際会議場。

辻 竜平, 2012, 「信頼と寛容: 概念整理と規定因」, 数理社会学会第53回大会, 3月12日, 鹿児島大学。

[図書](計1件)

辻 竜平, 2011, 「社会ネットワーク」, 唐沢穰・村本由紀子(編著), 『社会と個人のダイナミクス』誠信書房, 82-100。

[その他]

ホームページ等

http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prof/tsuji_1/2011/05/40830.html

http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/prof/tsuji_1/2012/08/48813.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻 竜平 (TSUJI, Ryuhei)
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号: 40323563

(2)研究分担者

長谷川 孝治 (HASEGAWA, Koji)
信州大学・人文学部・准教授
研究者番号：20341232

(3)連携研究者

相澤 真一 (AIZAWA, Shinichi)
中京大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：00456196

小泉 元宏 (KOIZUMI, Motohiro)
鳥取大学・地域学部・講師
研究者番号：60625234

(4)研究協力者

川本彩花 (KAWAMOTO, Ayaka)
京都大学大学院・人間・環境学研究科・
博士後期課程